坂出・綾歌支部メディア教育研究部会活動報告

研究主題
「自ら学び，自ら考え行動する生徒の育成」
ーメディア教材の積極的な活用を通してー

１　研究主題について

「生きる力」を育むという新学習指導要領の基本理念を実現するため，思考力・判断力・表現力の育成や確かな学力を確立するために必要な時間確保などがポイントとしてあげられている。特に，多様な情報の中から必要な情報を効率的に選択し，それらをもとに自分の考えや思いを主体的に表現・発信する力の育成を図ることが学校教育に求められていると考えられる。それはまさにメディア教育の担う役割であり，加速化する高度情報化社会の中においてその役割はますます大きくなってきている。

そこで，本部会では「教えて考えさせる」学習活動を通して，「自ら学び，自ら考えることができる生徒」の育成を目指すこととした。自ら学ぶみなもとは「知的好奇心」であり，メディア教材を積極的に活用することで「知的好奇心」と，学習の理解度の双方を高めようと考え，本主題を設定した。

２　研究の進め方

(1)　研究の概要

研究授業，授業討議をもとにして主題に迫る。

四国研究大会に向けて各校での授業実践及び実践発表を行う。

(2)　研究の経過

ア　４月 19 日（坂出市立坂出中学校）

研究組織及び主題の決定，研究の進め方についての共通理解

イ　６月 30 日（宇多津町立宇多津中学校）

研究授業，研究討議，各中学校での実践事例についての情報交換

ウ　11 月 11 日（坂出市立東部中学校）

香川県中学校教育研究会メディア教育部会研究大会

３　研究と実践

(1)　研究授業Ｉ

ア　第３学年選択　技術・家庭科

題　材　情報を校内へ発信
ー体育祭の感動をもう一度ー

授業者　宇多津町立宇多津中学校
Ｔ１：丸岡正則，Ｔ２：海田高志

イ　本時の目標

パソコンの操作やその特性を生かした「体育祭の記録作り」に興味，関心をもち，疑問や問題を見つけ，自ら進んで学習するとともに，メディアからの情報を正しく受け取り，判断し，使いこなすことの大切さを理解できる。

ウ　学習指導過程

①ダンスのサンプル作品を見て，パンニング，ズームイン，ズームアウト効果について確認する。

②本時の課題「テーマにあったアニメーションを写真に設定しよう」を知る。

③ピラミッド，Ｘ人Ｙ脚を担当している生徒同士で比較検討する。

④リレーを担当している生徒の作品を全体で見て工夫している点を発表す

る。

⑤教師が用意したリレーのサンプル作品を見る。

エ　討議内容

今回使ったソフトは効果音が 20 種類ぐらいあり，使い方も簡単で説明の時間が短くてよかった。それでも，パソコン操作の上手な生徒とそうでない生徒をペアにして学習させていた。校内放送など発表の場があると，他の生徒の反応が見えよい刺激となるだろう。きちんとしたスキル学習になっていたので，これを機会に発信者としての情報モラル（著作権・肖像権等）の学習につなげることができると考えられる。

(2)　研究授業Ⅱ

ア　第２学年４組　社会科

単　元　明治維新

授業者　宇多津町立宇多津中学校

伊井　隆雄

イ　本時の目標

明治維新の内容が理解できる。また，映像資料で興味を高め，既習内容をまとめることができる。

ウ　学習指導過程

①既習内容をまとめる。

②学習課題「明治新政府は何をめざし何をしたか」を知る。

③何をしたかの予想を書く。

④日本史 10min（第１３回)「廃藩置県，四民平等」を見て明治維新がめざしたものを発表する。

⑤「明治維新とは・・・・・をめざして・・・をおこなった」とまとめる。

エ　討議内容

10min は 10 分という長さがよい。生徒が飽きないし，興味・関心を高めることができていた。また，復習時に映像を使うことは，生徒に今までの学習内容を思い出させるのに効果的であった。キャプチャーを設定して頭出しを簡単にできるようにしておくとよい。学習過程のどこで映像資料等を使うかまとめて整理していく必要がある。

(3)　香川県中学校教育研究会メディア教育部会研究大会

ア　大会運営への協力

イ　研究交流分科会・講演会等への参加

４　今後の課題

情報活用能力の育成を目的とする授業としない授業，つまり，学習内容としてＩＣＴを使った授業と学習手段としてＩＣＴを使った授業という視点で教育計画を見直す必要がある。また，映像と文字資料の組み合わせにより，消えてしまう記憶を補足する必要がある。